

1級審判員研修会（グループ研修①）

大会開催中に以下のような事案が発生しました。

自身がその大会のレフェリーであった場合どのような対応を取るべきか考えて下さい。

ある中学生の大会でのできごとです。その大会は予選リーグは5ゲームマッチ、決勝トーナメントは7ゲームマッチで行われる予定でしたが、午後から雨が降ることが予想されたためすべての試合を5ゲームマッチで実施することが開会式で告げられました。

決勝トーナメントがスタートしてしばらく経過したときに、あるコートで選手が審判台の辺りへ集まり、なにかもめているようでした。事情を聴くと選手、審判共に5ゲームマッチになったことを忘れて7ゲームマッチで試合を行ってしまい、ゲームカウント3-3でファイナルゲームを行っていたとのこと。そのファイナルゲームを⑦-3でA・Bペアが取り、正審が「ゲームセット」とコールし最後の挨拶をおこなおうとしたところで、決勝トーナメントも5ゲームマッチに変更となったことを思い出したC・Dペアから「5ゲームマッチだったのではないか？」と質問があり、審判も間違って7ゲームマッチで行ってしまったことを認めました。

そのマッチはA・Bペアが、2-④、④-1、⑤-3、5-⑦、0-④、⑧-6、と進んでファイナルゲームとなりました。

A・Bペアは「7ゲームマッチで行ってしまって決着がついたのだから自分たちが勝ちだろう」と、C・Dペアは「本当は5ゲームマッチで行われるべき試合だったので6ゲーム、7ゲームは無効だろう」と主張をしていて、正審副審共にどう対処してよいか分からず困っていたとのことでした。

レフェリーとしてこのコートへ出向き状況の説明を受けた場合にどのように対処しますか？以下へその対応を記入してください（関係条文なども）

ゲームカウント③-2でC・Dペアの勝利として扱う

・7ゲームマッチで「ゲームセット」となっているのではないか？

→「ポイントカウントの訂正はそのゲーム内に、ゲームカウントの訂正はそのマッチ内に再判定を行うものとする（審判規則 第14条（再判定）解説25の2）」とあり、アンパイラーは「ゲームセット」とコールはしているがマッチ終了の挨拶はまだされておらず、C・Dペアの質問により5ゲームマッチで行うべき試合を誤って7ゲームマッチで行っていたことに気が付いたのであれば訂正を行う。

・5ゲームマッチであれば第5ゲームは7ポイント先取で行わなければならないのではないか？

→前述の審判規則 第14条（再判定）解説25の2の通り、ポイントカウントの訂正はそのゲーム内となっている。そのため4ポイントしか行われていないとしても、第6ゲームの1ポイント目のサービスが行われた時点で第5ゲームをC・Dペアが取ったということが成立する。

★小・中学生の大会において「教育的配慮」からそのマッチだけを7ゲームとして認める場合は、競技委員長や大会責任者と協議して結果を出すことも考えられる。

1級審判員研修会 (グループ研修②)

大会開催中に以下のような事案が発生しました。

自身がその大会のレフェリーであった場合どのような対応を取るべきか考えて下さい。

その日は台風の影響で大変な強風の中で大会が行われていました。あるコートで相手のカットサービス（セカンドサービス）がサービスラインとサービスサイドラインとの交点付近に落下してインでした。レシーブをするプレーヤーは強風の影響でバウンドしたボールがサイドラインの方向へ大きく流されることを予測し、フォアで回り込んで返球が可能な位置へ移動しようと素早く反応をし動きました。しかし、その際にサービス判定を行うために、サービスラインの延長線上に位置していた副審とぶつかってしまい、返球をすることができませんでした。

レシーバーから「副審が邪魔になって返球ができなかったのだから『ノーカウント』ではないか？」と質問がなされたため、正審は副審を呼び状況の確認を行いました。すると副審も「動きの状況から考えると自分（副審）にぶつからなければ正しく返球はできていたと思う」と発言したため、正審は双方のプレーヤーを呼び状況説明を行ったうえで『ノーカウント』として、そのポイントのやり直しを行うよう指示しました。

しかし、その説明にサーバーの選手は「アンパイラーの判定ミスもなく、有効となるサービスを返球できなかったのだからレシーバーの失ポイントではないのか？」と正審が下した再判定に納得せずプレーを再開しようとはしませんでした。そのように言われると正審も自分の判断に自信が持てなくなり、どうしてよいのか分からず、その後10分以上マッチの進行がされずにいました。

レフェリーとしてこのコートへ出向き状況の説明を受けた場合に

どのように対処しますか？以下へその対応を記入してください（関係条文なども）

有効に返球できなかったレシーバーの失ポイントとする

・プレーヤーファーストと考えれば副審は避けるべきではないか？

→副審は、審判規則第9条（アンパイラーの位置）第1項 第2号の「…ただし、サービス判定の時には、レシーブ側のサービスラインの仮想延長線上でコートに入らないように位置し、判定後は直ちに定位位置へ移動しラリーを見守る」に従って判定を行っている。であれば返球の邪魔になるからといって除ける必要はない。ラリーを見守る定位位置（ネットポスト後方約60cm）にいるときと同様でプレーヤーがアンパイラーに触れれば「タッチ」、打球がアンパイラーに当たれば「アウト」と判定を行う。副審が無意識にポジションを移動し結果的に有効なレシーブが返球された場合には、その理由は「レシーブの邪魔になるからポジションを変更した」ではなく、「衝突による事故（怪我）を未然に防ぐためにポジションを変更した」や「プレーヤーによりボールの落下点が見えづらくなりそうだったのでポジションを変更した」でなければならない。

もしも「レット」として取り扱う場合には選手には「アンパイラーのサービス判定の位置が正しくなかったために有効なレシーブを返球できなかったため」という説明が必要となる。

・上記で「正審は双方のプレーヤーを呼び状況説明を行ったうえで『ノーカウント』として、そのポイントのやり直しを行うよう指示しました」とあるが、サービスをやり直すのであれば「レット」となるので、受講者から発言若しくは質問が無ければ、講師から訂正を伝えて下さい。